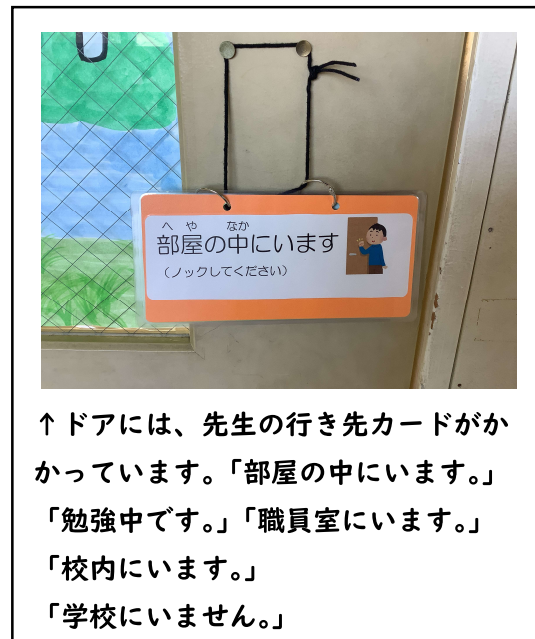


# 『おおきな木(通級指導教室)』だより

豊中市立高川小学校令和5年(2023年)11月28日 No.3

～『おおきな木(通級指導教室)』の部屋を紹介します～



## こうおんしょうがい 構音障害とは・・・

わたしたちは、<sup>こうとう</sup>喉頭でつくられた音声を元にして、それより上方にあるさまざまな器官(舌・<sup>うわくちびる</sup>上嘴唇・<sup>したくちびる</sup>下嘴唇など)により、「話し言葉」をつくりだしています。これを「構音動作」といい、それがうまくできていない状態を「構音障害」といいます。

構音障害の分類としては、

- ① <sup>きしつせいこうおんしょうがい</sup>器質性構音障害 (構音器官の形態的異常によるもの)
- ② <sup>うんどうせいこうおんしょうがい</sup>運動性構音障害 (神経・筋系の病変によるもの)
- ③ <sup>きのうせいこうおんしょうがい</sup>機能性構音障害 (構音器官の形態や機能に異常のないもの) になります。

おおきな木では、特に③について、誤り音から正しい発音にするために、構音器官の“どこを動かせば音が出るのかを意識させて”発音の練習を行います。

誤り音の種類としては、

- ・省略→てれび[terebi]→[te ebi]
- ・置換→さかな[sakana]→[takana]、かさ[kasa]→[tasa]
- ・側音化構音→「シ」は「ヒ」に、「チ」は「キ」に近い音に聞こえるなどがあります。

言語聴覚士の方のお話では、機能性構音障害は本人に「治したい」というモチベーションがあると改善しやすいそうです。構音障害におけるアセスメントや指導法については、他校の通級指導の先生方や言語聴覚士の方と相談しながらすすめていきたいと思っています。

今週から、個人懇談が始まりますので、学習面・生活面・言語面で気になることがあれば、担任の先生にご相談ください。

(豊中市立高川小学校 通級指導教室担当:小林 文絵)